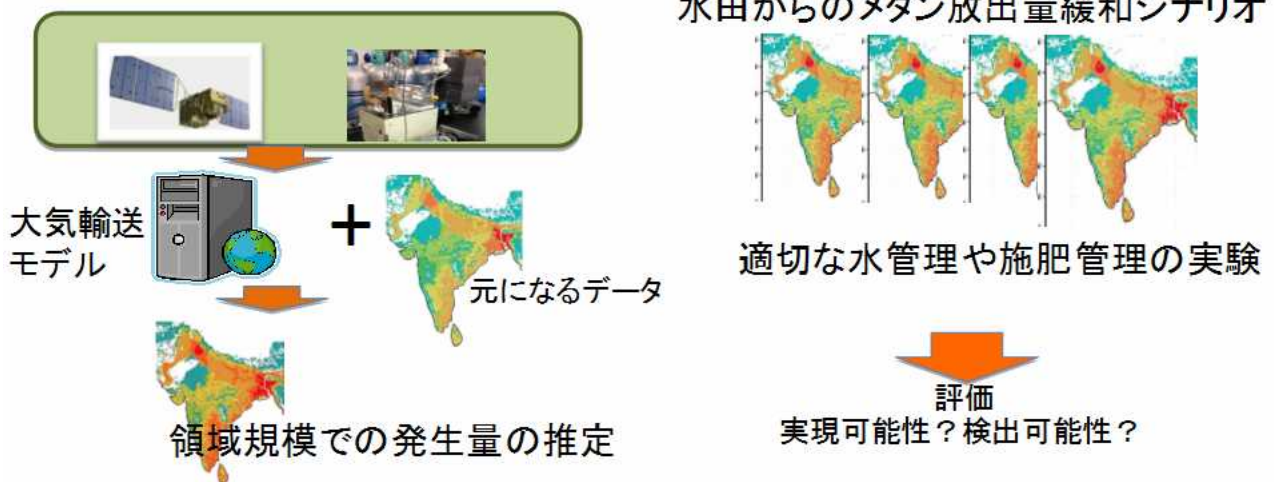


衛星観測に基づく大気微量成分の研究

環境科学コース 林田 佐智子

目標 1: GOSATと地上観測データを用いた南アジアからのメタン放出量推定の精緻化

目標 2: メタン放出量の緩和方策の開発



AMASA プロジェクト概念図

私の研究テーマは地球大気微量成分の研究である。地球乾燥大気中の組成のうち窒素と酸素の二つでおおよそ99%になる。残りの1%の中にごくわずかな化学物質が多数含まれるが、それらを大気微量成分と呼んでいる。二酸化炭素やメタンは温室効果気体としてよく知られており、オゾンや窒素酸化物(NOx)は大気汚染物質でもある。これらはごく微量だが環境問題に大きな影響を及ぼしている。私は人工衛星から観測したデータを元にこれらの微量成分を分析している。狭い意味での大気汚染物質の研究だけでなく、温室効果気体の研究も行っている。平成27年度からは環境省の研究課題の代表として、南アジアからのメタン放出研究プロジェクトAMASAを牽引している。詳細はプロジェクト website <http://www.ics.nara-wu.ac.jp/lab/ertdf/>を参照のこと。

キーワード：衛星観測、大気微量成分、温室効果気体、オゾン、地球温暖化、大気汚染